

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：病理細胞検査研究班 提出日：令和 4 年 6 月 24 日 報告者：柚木 浩良

行事種別	研究会	行事番号	220000363
開催日	令和 4 年 5 月 28 日（土）～ 令和 4 年 6 月 10 日（金）		
時 間	開 始	—	終 了
場 所	Web 配信（オンデマンド配信）		
テーマ	細胞診検体処理の工夫/ギムザ染色		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	公立陶生病院 柚木 浩良		
講 師	講演 1. 「当院の細胞診検体処理について」 刈谷豊田総合病院 澤田 涼子 豊川市民病院 山川 貴章 JA 愛知厚生連渥美病院 森 三希子 講演 2. 「ギムザ染色」 愛知医科大学病院 都築 豊徳 教授		
内 容	この研究会では「細胞診検体処理の工夫/ギムザ染色」をテーマに、基礎から応用まで幅広い内容で講演していただいた。 講演 1 では、3 施設それぞれの特色を活かし、細胞診検体処理の運用や工夫をについて紹介していただいた。 講演 2 では、組織診や細胞診でよく使用されるギムザ染色について幅広く、さらには深く掘り下げて講演していただいた。日々の業務に直結できる内容で、新しい知見もあり大変有意義な内容であった。 講演 1.2 とも自施設の運用や知識を見直す良い機会であったと思われる。		
参加者	総数：202 名（会員 143 名、県外会員 59 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名、レポート提出者 179 名）		
共催、後援など	無し		

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：病理細胞検査研究班 提出日：令和 4 年 7 月 23 日 報告者：柚木 浩良

行事種別	研究会	行事番号	220001331
開催日	令和 4 年 6 月 25 日（土）～ 令和 4 年 7 月 8 日（金）		
時 間	開 始	—	終 了
場 所	Web 配信（オンデマンド配信）		
テーマ	病理分野のタスクシフトについて		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	名古屋大学医学部附属病院 原 稔晶		
講 師	講演 1. 「病理検査におけるタスクシフトに関して（アンケート調査報告）」 愛知県がんセンター病院 大島 康裕 講演 2. 「臨床現場と病理のハイブリット化～多資格取得のメリット～」 社会医療法人 近森会 近森病院 橘 知佐 講演 3. 「病理分野のタスクシフト」 日本臨床衛生検査技師会 滝野 寿		
内 容	この研究会では「病理分野のタスクシフト」をテーマに、基礎から応用まで幅広い内容で講演していただいた。 講演 1 では、研究班を対象に病理分野のタスクシフトについてアンケートをし、集計結果を報告された。どの病院もまだ何も行っておらず、この分野は病理医の意向で左右されるので、進展するか予測できないと感じた。 講演 2 では、内視鏡検査を臨床検査技師が行い活躍されている内容でした。20 年も前から先取りで行っていたことは素晴らしいと感じた。院長の手腕のたまものである。刺激をうけた内容であった。 講演 3 では、病理分野のタスクシフトについて日臨技の見解を聞くことができた。ただ業務が増えるだけでなく、それなりの対価ややりがいを見いだしていくようルール作りにご尽力を注いでいることが分かった内容であった。		
参加者	総数：150 名（会員 108 名、県外会員 41 名、非会員 1 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名、レポート提出者 114 名）		
共催、後援など	無し		

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：病理細胞検査研究班 提出日：令和 4 年 11 月 17 日 報告者：柚木 浩良

行事種別	講演会		行事番号	220008518	
開催日	令和 4 年 10 月 15 日（土）～28 日（金）				
時 間	開 始	—		終 了	—
場 所	Web 配信（オンデマンド配信）				
テーマ	がんゲノム医療について				
生涯教育履修点数	専門教科 20 点				
司 会	小牧市民病院 藤田 智洋 技師 ・ 愛知県がんセンター病院 平松 可帆 技師				
講 師	講演 1. がんゲノム医療への向き合い方～臨床検査技師が成功のカギを握っている～ 慶応義塾大学病院 柳田 絵美衣 講演 2. リキッドバイオプシーによる遺伝子パネル検査と臨床応用 愛知県がんセンター病院 ゲノム医療センター センター長 衣斐 寛倫 講演 3. コンパニオン診断における遺伝子検査の精度管理 名古屋第一赤十字病院 郡司 昌治				
内 容	この講演会では「がんゲノム医療について」をテーマに、がんゲノム医療における臨床検査技師としてどのように向き合うか、またパネル検査の臨床応用や精度管理など最新の話題について講演していただいた。 講演 1 では、がんゲノム医療におけるがん遺伝子検査で成功のカギになるものを詳しく丁寧に解説された。適切な固定や標本の選別（マクロダイゼクション）以外に、ピペット操作で結果が変わってくるのは盲点であった。今後気をつけていかなければならないと感じた。基本この検査は外注に出す施設が多く、内容はブラックボックスであったが、細かい説明があり、大変参考になった。 講演 2 では、リキッドバイオプシーで遺伝子プロファイリングができる最新の知見を拝聴した。この検査でメリット・デメリットが詳しく解説され、大変参考になった。リキッドの検体で問題になること（・腫瘍病変の存在部位によって結果が変わること、・Clonal hematopoiesis によっても結果が変わることがあること）が最新の知見として勉強になった。 講演 3 では、遺伝子検査の精度管理として、・固定の質（固定の種類や時間以外に固定までの時間のなど）、・正常細胞と腫瘍細胞の比率、・腫瘍の Heterogeneity（形態の違う部位や複数の腫瘍の評価）、・臨床側と検査側の情報の共有化が重要で、精度を保つため検査技師が意識しておかなければならないと感じた。 それぞれの講演で、今後のがんゲノム医療について考える良い機会になった。				

参加者	総数：164 名（会員 113 名、県外会員 51 名、非会員 名、賛助会員 名、学生 名、 その他 名、）・申込総数：215 名
共催、後援など	

2022.10.12

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：病理細胞検査研究班 提出日：令和 5 年 2 月 18 日 報告者：柚木 浩良

行事種別	研究会	行事番号	220016810	
開催日	令和 5 年 2 月 18 日 (土)			
時 間	開 始	15 時	終 了	17 時
場 所	リップルスクエア			
テーマ	令和 4 年度愛臨技精度管理報告、毒劇物管理			
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点			
司 会	公立陶生病院 柚木 浩良			
講 師	講演 1. 細胞部門精度管理報告 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 新田 憲司 病理部門精度管理報告 名古屋市立大学病院 松井 竜三 講演 2. 当院における毒劇物管理について 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 広瀬 美砂 講演 3. 試薬の安全な取り扱い方 メルク株式会社・シグマアルドリッチジャパン合同会社 橋本 修一			
内 容	講演 1 では、令和 4 年度の愛臨技精度管理調査の結果報告と解説をした。病理部門と細胞部門の不正解の設問も含め、しっかりとした解説で、業務の復習にもなり得る内容であった。 また後半講演 2 では、毒劇物管理について施設の実際の運用例を紹介された。施設によって取扱い方、保存方法、廃棄方法が違うので参考になった。続いて講演 3 では、試薬メーカーの立場から試薬の取り扱い方、関連法規、事故事例など講演された。自施設の運用を見直す良い機会で、日々の業務に役に立つ内容であった。参加者も満足された印象であった。			
参加者	総数 :名(会員 名、県外会員 名、非会員 名、賛助会員 名、学生 名、その他 名、)・ 申込総数：56 名			
共催、後援など				

2022.10.12